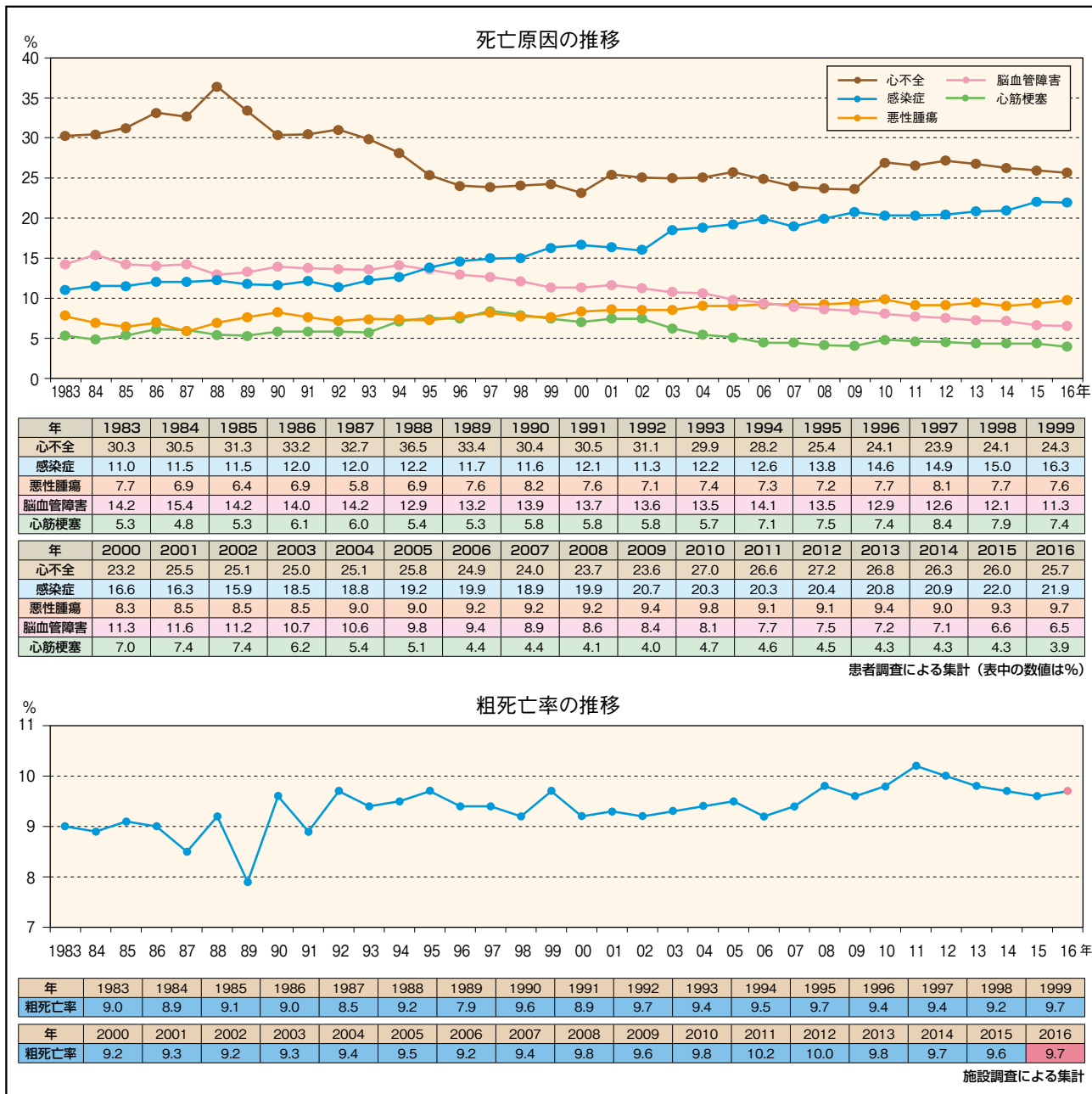


1) 慢性透析療法の現況

(13) 死亡原因および粗死亡率の推移 (図表13)



解説

死亡原因の経年的推移では、心不全による死亡が第一位であり、ここ数年26～27%程度で推移している。感染症による死亡は1993年頃から一貫して増加傾向であるが、2016年は2015年より0.1ポイント低下した。脳血管障害による死亡は1994年以降減少している。心筋梗塞による死亡は、1997年の8.4%をピークに最近は低下傾向である。悪性腫瘍による死亡は1987年の5.8%を底に少しずつ増加していたが、2004年に9.0%台になってから以後横ばいである。心不全、脳血管障害、心筋梗塞を心血管障害による死亡とすると、1988年には54.8%であったものが、ほぼ一定のペースで減少し、2016年には36.1%となった。なお、本調査における死亡原因分類コードは、2003年調査と2010年調査の2時点で大きく改訂されており、2017年調査でもさらに改訂される予定である。

施設調査における患者動態から、以下の式で年間粗死亡率を算出した。

$$\text{粗死亡率} = \{ \text{死亡数} / (\text{前年患者数} + \text{調査年患者数}) \div 2 \} \times 100 (\%)$$

導入患者の高齢化、糖尿病性腎症患者や腎硬化症の増加など予後不良な患者の導入が多くなっていることが原因で、粗死亡率は年々悪化傾向を示していると考えられる。粗死亡率はアンケート回収率が低かった1989年の7.9%が最低値であるが、1992年以降は9.2～10.2%の範囲内で推移し、2016年は9.7%であった。